

続報！ 韓国病院火災 - 西日本防災システム

2014 06 01

韓国南西部長城郡の高齢者向け療養型病院で5月28日に発生し、21人が亡くなった火災で、認知症の男性患者(81)が、病院から脱出するために火を付けた疑いが浮上しているようです。韓国聯合ニュースが30日、警察の話として伝えています。

警察は現住建造物放火致死傷の疑いで男性の逮捕状を請求したそうです。

警察によりますと、男性は調べに対し、入院を同意していないのに家族に無理やり入院させられたと主張していて、今月1日の入院後、周囲に不満を漏らしていて、病院を抜け出して自宅に戻ったこともあったようです。

警察は、男性の認知症の症状が重度ではないとの診断結果が出たことや、自分に不利な供述を避ける程度の判断力があることなどから、刑事責任が問えるとみているようです。男性は容疑を否認しているそうです。

警察は院内の監視カメラの画像から認知症で入院中のこの男性(81)が放火したと断定し、放火容疑で取り調べているそうです。韓国メディアによりますと、この病院には体の不自由な患者が多く入院していましたが、出火当時は夜間体制で看護師1人と看護補助2人の計3人の勤務態勢だったようです。このため避難誘導や救助に当たる人員不足だったとの指摘も出ているようです。さらに、認知症による徘徊を防ぐためにベッドに縛り付けられていた患者もいたようで、多数の要因が重なり、被害が大きくなった可能性がありそうです。病院は地上2階、地下1階で、火元は物品保管に使われていた2階の無人の1室だったそうです。

我が国でも、どの国でも、このような施設では起り得る可能性がある火災です。やはり、管理体制の強化と設備の充実、そして職員のかた全員の火災に対する意識の向上で対応するしかないのではないのでしょうか。



西日本防災システム

NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ 